



池袋図書館 月刊情報誌

ふくろう通信

2018年2月号

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3 ☀
4	5	6	7 😊	8	9	10 🎵
11	12	13	14	15	16	17 ☀
18	19	20	21	22	23	24 🎵
25	26	27	28			

3月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3 ☀
4	5	6	7 😊	8	9	10 🎵
11 🎵	12	13	14 🎵	15	16	17 ☀
18	19	20	21 🎵	22	23	24 ☀
25	26	27	28	29	30	31 🎵

- ☀マークのついている日はたんぽぽおはなしかいです。(午後2:30から2階ワークルームにて)
😊マークのついている日はあかちゃんおはなしかいです。(午前11:00から2階ワークルームにて)
🎵マークのついている日は工作会・スペシャルイベントがあります。(詳細は、次のページへ)

豊島区立池袋図書館

〒171-0014 豊島区池袋3-29-10

☎03-3985-7981

●開館時間●

平日 午前9:00～午後8:00

土・日・祝日 午前9:00～午後6:00

●休館日● (第1月曜日・第4金曜日・年末年始)

【2月】5日(月) 23日(金)

【3月】5日(月) 23日(金)



今月のめだま



さむ～い季節なんて、吹き飛ばせ

毎日、凍えるような寒さが続きますね。
今月は、ぽかぽか温まるような、催し物を開催します。
お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

★たんぽぽこうさくかい★

2月10日(土)

午後2:30から3:30

2階ワークルーム

もうしこみはいりません。

たんぽぽこうさくかい

ぽかぽか ごはんを
みんなで作ろう!



*いろいろみをつけて、ごちそうをつくります。

2がつ 10にち とうふび
ごご2じ30ふんから3じ30ふん
2かい ワークルーム

*おかけはいりません。

いけぶくろとしょかん 03-3985-7981

スペシャル
おはなしかい

みんなで
たのしもう
ふゆ
冬
あそび

たのしくからだを うごかして、
ぽかぽかになろう!

にちじ 2がつ24にち(とうふび)
じかん ごご2じ30ふん～3じ30ふん
はしょ いけぶくろとしょかん 2かいワークルーム

★じせんのもうしこみ、おかけは、いりません。
としまぐけつ いけぶくろとしょかん TEL03-3985-7981

★スペシャルおはなし会★

2月24日(土)

午後2:30から3:30

2階ワークルーム

もうしこみはいりません。

ふくろう博士の今月の調べてみよう！



* 今月は、2月22日(猫の日)にちなんで、猫の世界をのぞいてみましょう！

1. 猫研究 一猫の知られざる生態を、のぞいてみましょうー

≪1階(一般)の本≫

・『猫づくし日本史』 武光誠/著 河出書房新社【645 タ】

・『ねこはすごい』 山根明弘/著 朝日新聞出版【645 ヤ】

≪2階(児童)の本≫

・『動物の学校2 猫-かわいいネコには謎がある-』 今泉忠明/著 講談社【JB イ】

・『ねこの本(はじめての発見17)』

パスカル・ド・ブルゴアン/原案・製作 手塚千史/訳 岳陽舎【E1 4】

・『ノラネコの研究』 伊澤雅子/文 平出衛/絵 福音館書店【489】



2. 猫好き著名人 一猫好きならではの猫世界を、のぞいてみましょうー

≪1階(一般)の本≫

・『著名人が語る猫♥ラブ物語』 猫びより編集部/編 辰巳出版【645 チ】

・『猫語の教科書』 ポール・ギャリコ/著 灰島かり/訳 筑摩書房【934 キ】

・『ジェニィ』 ポール・ギャリコ/著 古沢安二郎/訳 新潮社【B キ】

・『猫のはなし』 浅田次郎/選 日本ペンクラブ/編 KADOKAWA【B ネ】

・『猫は迷探偵』 月刊「ねこ新聞」編集部/監修 竹書房【B ネ】



3. 猫話 一猫にまつわる、民話や神話を、のぞいてみましょうー

≪1階(一般)の本≫

・『猫の神話』 池上正太/著 新紀元社【388 イ】

・『世界の猫の民話』

日本民話の会・外国民話研究会/編訳 三弥井書店【388 セ】

≪2階(児童)の本≫

・『ネコ 猫 ねこ』 光吉夏弥/訳編 平凡社【JO ネ】



* お探しの場合は、図書館スタッフまでお申し付けください。

【いわさきちひろ生誕 100 年】

今年は画家・絵本作家のいわさきちひろ生誕 100 年に当たります。全ての子どもの幸せと世界の平和を祈りつつ描き続けた、ちひろの世界。独特の色彩と筆使いが多くの人々の心に残る絵は、今なお私たちを魅了し続けています。

55 歳という若さで亡くなったちひろですが、その創作活動は日本の絵本が確立し、多彩な発展をしていく過程と重なっています。東京都練馬区下石神井の自宅跡に建つ「ちひろ美術館・東京」には、ちひろのアトリエがそのままに展示しており、作品制作に向かう姿をしのぶことができます。

『いわさきちひろ画集』いわさきちひろ／著 毎日新聞社 【L 726.5 1】

『鏡のなかの私 ーもう一度みつめてー』いわさきちひろ／著 大和書房 【726 1】

『ラブレター』いわさきちひろ／著 講談社 【726.6 1】

『戦火のなかの子どもたち(創作絵本 14)』岩崎ちひろ／作 岩崎書店 【E 17】

『安曇野ちひろ美術館をつくったわけ』松本猛／著 新日本出版社 【726 7】

きょうか しょ ほん よ

教科書本を読もう！

『ごんぎつね』 にいみなんきち さく 新美南吉／作 まさひろ え かすや昌宏／絵

— ねんせい 4年生 こくご 国語 げ 下 けいさい 掲載 —

だれもが読んだことのある、新美南吉の『ごんぎつね』です。この作品は昭和7年『赤い鳥』において、『ごん狐』として世に出ました。南吉の死後、彼の創作ノートの中から草稿『権狐』が見つかったことにより、『赤い鳥』版と南吉オリジナル版の違いが明らかになりました。

中でも、最後に兵十に撃たれたあとのごんの描き方の違いがよくあげられます。南吉の『権狐』は、『校定新美南吉全集』第10巻(大日本図書)に収録されています。「救いがある」とも評されるもう一つの『ごんぎつね』、豊島区立図書館にも所蔵がありますので、気になる方はぜひ。

指定管理者：(株) 図書館流通センター